

論文審査の結果の要旨

氏名： 鳥海 早喜

専攻分野の名称： 博士（芸術学）

論文題名： 金丸重嶺研究 - 新興写真時代の活動と初期写真教育を中心に -

審査委員： （主査）教授 高橋 則英

（副査）教授 原 直久 教授 鈴木 保彦

教授 松田 義弘

本論文の概要

本論文は、戦前から戦後に至る日本写真史の中で、写真家、写真教育者、写真評論家として多大な業績を残した金丸重嶺（1900-1977）の、とくに戦前の新興写真時代の活動と初期の写真教育について論じたものである。

金丸重嶺は、我が国の商業写真の先駆者であり、1926（大正15）年に日本初の商業写真スタジオである金鈴社コマースシャルフォトスタジオを設立している。それはまた、ヨーロッパのドイツを中心として興隆した近代的な写真表現が、新興写真として我が国へ紹介され始めた時期でもあった。そして積極的にこの新しい写真の動向を吸収した金丸重嶺は、1932（昭和7）年に『新興写真の作り方』を著すなど、我が国への新興写真の導入に主導的な役割を果たした写真家でもあった。また1939（昭和14）年に、日本大学専門部芸術科に新たに写真科が設置されると、その主任として招かれ、新興写真に基づいた近代的な写真教育を精力的に推し進めていくのである。

このような戦前の活動をはじめとし、写真教育者、写真評論家としての活動が主となった戦後に至るまで、金丸重嶺の近現代の日本写真史における業績は多大である。しかしながら、現在まで金丸重嶺に関する体系的な研究はほとんどなされてこなかったというのが実情である。

金丸重嶺が1977（昭和52）年に没した後、写真関係資料、日記や講義ノート、スクラップブックなどの文書資料、和書洋書雑誌の蔵書など多数の資料が遺族から日本大学芸術学部写真学科に寄贈された。本論文は、整理保管されながら、これまでほとんど研究対象となつてこなかったこれら多数の資料の詳細な調査研究に基づいて執筆されたものであり、初の本格的な金丸重嶺研究として意義あるものといえる。

本論文の研究目的として挙げられているのは、新興写真の意義とその中で金丸重嶺が果たした役割、金丸重嶺の写真の特質と写真家としての信念、金丸重嶺による写真教育の根幹、写真家および教育者としての経験が評論家としての活動に与えた影響、金丸重嶺の人となりなど、これらについての検証と考察そして解明である。以上のような研究目的を論述するため、論文は別紙目次のような構成となっている。

本論文に対する所見

・序論および第1章：近代的な写真の成立

序論では本研究の動機や先行研究について、また研究目的として、前述した新興写真の意義と金丸重嶺が果たした役割、金丸重嶺の写真の特質と写真家としての信念、金丸重嶺による写真教育の根幹、写真家および教育者としての経験が評論家としての活動に与えた影響、金丸重嶺の人物像などについての検証と考察そして解明が挙げられている。その上で、研究方法と研究対象である資料、そして論文の構成が述べられている。

第1章では、第1節で新興写真が導入される以前の日本写真史について、幕末の渡来から明治末年・大正期の芸術写真までを概説した後、第2節で新興写真の導入を述べている。

第2節では、金丸重嶺による著作『新興写真の作り方』が、当時の単行書としては初の新興写真に関する本であることを指摘し、金丸重嶺が書名として「新興写真」という語を用いた理由を示した興味深い考察を行っている。また第3節では新興写真における写真分野の概念として「商業写真」と「広告写真」の違い、あるいは「報道写真」の語の定義が、『商業写真術』『新興写真の作り方』などの著作や授業ノートを読み込んだ詳細な分析を基に行われている。本論文の論考に関わる基本的な概念を定義付けた秀逸な分析である。

・第2章：金丸重嶺の生涯

この章では、金丸重嶺の77年の生涯を第1節と第2節で戦前と戦後に分けてまとめているが、本研究の目的から、戦前の活動を中心として網羅的に記されている。先行研究や既出資料を基本としながらも、戦前のとくに写真家としての活動に関しては、アサヒカメラ誌をはじめとする当時の雑誌記事などを丹念に調査して、これまで明らかにされてこなかった撮影の経緯や制作の過程が詳しく述べられている。本研究の成果の一端を示すものといつてよい。さらに金丸重嶺が戦前の商業写真家、報道写真家としての経験を基に、どのような情熱と信念をもって写真教育に関わっていったかも述べられ、次章以降の論考の基本となる考察が示されている。

・第3章：写真家としての金丸重嶺

本論文の中心となるこの章では、金丸重嶺の写真家としての活動を時系列に沿って4つに分類し、第1節から第4節まで代表的な写真作品について検証を行い、また第5節では代表的な3冊の著作について分析を行っている。

第1節では金丸重嶺の写真家として最初の経歴である金鈴社コマーシャルフォトスタジオ時代の活動を分析している。商業写真の制作を通して金丸重嶺の写真表現が、第一次金鈴社時代の「光の造形としての写真」を意識したものから、第二次金鈴社の時期に入ると次第に「写真の現実性」を活かしたものへと変容していったことが示されている。続く第2節では、商業写真と報道写真制作の交錯期の作品として、東京スナップや満州旅行取材の写真の特徴について述べ、金丸重嶺にとっては商業写真も報道写真も撮影対象の魅力や特徴を伝えるという点において共通していたことを指摘している。

第3節では、1936（昭和11）年のベルリンオリンピック取材とそれに続く欧州旅行の写真が、「写真の現実性」を活かした表現の円熟期の作品として検証されている。さらに金丸重嶺の写真におけるトリミングが果たす効果の大きさについて優れた分析を行っている。そして第4節では戦時体制下における活動として、洗練された現実性の強い写真表現と、商業写真家として培ってきた技術を融合させて取り組んだ国策宣伝としての写真制作の特徴について論考している。そしてこれらの検証結果を総括することで、金丸重嶺の写真家としての信念を考察するとともに、当時の写真界を取り巻く状況、太田英茂や山脇巖といったアートディレクター、建築家との関わりについても考察が行われている。

以上のようなこの章の論考は、日本大学芸術学部写真学科に所蔵されるオリジナルプリントをはじめとする作品や資料の綿密な調査、そして優れた分析や考察に基づくものであり、高い評価を与えられるものである。またこの章では代表的な著作を検証することで、金丸重嶺の写真に対する考え方について考察を加えている。とくに『新興写真の作り方』において金丸重嶺が、海外作家や自身の写真をどのように挿図として選択し解説を付していったかということに関する詳細な分析は、これまでにない優れたものとして評価できる。

・第4章：写真教育者としての金丸重嶺

この章では、写真教育者としての金丸重嶺について、日本大学専門部芸術科写真科での取り組みを辿りながら考察している。その前段として第1節ではそれ以前の我が国の写真教育とその成り立ちを述べるとともに、第2節で日本大学専門部芸術科写真科の授業内容を比較分析し、その教育の理念と斬新さを指摘している。さらに第3節では、金丸重嶺が写真科における授業のために作成した4冊の講義ノートの詳細に分析し、それを基に金丸重嶺による写真教育の根幹を考察している。この講義ノートの詳細な調査は本研究において初めて行われたものであり、本論文の独自性を示す点ともなっている。そしてその分析から金丸重嶺にとっての写真とは「観察の能力による観察の芸術」であり、それを実現できる写真家の教育を目指していたことを指摘したことが秀逸である。

さらに戦後の教育活動に関しては、写真家として優れた実績を残した写真学科卒業生へのインタビューも行っている。写真や文書史料だけでなく実際の証言を基にした考察もこの研究に深みをもたせるものとなっている。

・結論

そして結びでは、新興写真は写真を解体し表現や機能の本質を定義付け分類したものであり、一つの流行として興起し消え去ったのではなく、現在の写真の基礎となり発展していったことを指摘している。そ

れとともに、写真家としての金丸重嶺は、「人の心を動かす写真を制作する」という変わらぬ信念をもち、「広告写真家」で在り続け、その精神と技術を教育者として学生に伝えようとしたと結論付けている。

さらに金丸重嶺は常に実動者として写真の世界を奔走しながら写真界と写真を取り巻く環境を俯瞰し、将来を常に見据えながら、写真家として、教育者として、評論家として写真界を発展させようとしていたとまとめている。金丸重嶺の偉大な業績の真髄を示した優れた結論といえるであろう。

以上のように本論文は、日本大学芸術学部写真学科に長く保管されながらほとんど手付かずであった資料を詳細に調査し分析を行って執筆されてものである。戦前から戦後にかけて多大な業績がありながら、これまで体系的な研究が行われてこなかった金丸重嶺の初めての本格的な研究として、日本大学芸術学部にとっても価値が高いものである。さらに現代の写真の基盤となった近代的な写真「新興写真」の研究に新たな到達点を示したものとしても高く評価できるものである。

最後に、別添として本論文に付された400頁を超える資料編は、金丸重嶺の現存全写真作品のリストと画像に加え、講義ノートの書写がまとめられたものである。本論文が研究として高い水準を示したのは、このような綿密な資料の調査に基づくものであったことをとくに記しておきたい。

以上のような所見によって本論文は、博士（芸術学）の学位を授与されるに値するものと認められる。

以 上

平成26年1月30日